

透析患者の特別養護老人ホームでの看取り

こくら庵

○桑内清美 小森優也 東村清貴 山元紀子 岸本康治 小松利恵子 船越哲

【はじめに】

当施設は透析病院に付設した特別養護老人ホームで、入居者のほぼ全員が維持血液透析患者である。今回施設内での看取りを希望する患者・家族に対して対応できた経験をしたので報告する。

【症例 1】

67 歳女性、透析歴 30 年。看取り経過〇〇週間。腎癌の多発性転移を有していたが、本人の入院はしたくない・透析は継続したいという強い希望に沿って、嘱託医・緩和ケアの在宅医の主治医 2 人体制で対応を行う事ができた。低栄養と褥瘡のため全身状態も悪かったが、主治医とスタッフを含めた頻回のカンファレンスを行なうことで、入浴や外出などの本人の希望を叶えつつ施設で看取った。

【症例 2】

82 歳女性、重症肺炎、透析歴 3 年。看取り経過〇〇週間。本人の施設で過ごしたい、家族の延命治療は希望しないが透析は継続させたい、との希望に沿い、症例 1 と同じく嘱託医・在宅医 2 人体制をとった。重症肺炎を発症したが、緩和ケアを行ない終末期は家族と自室にて穏やかな時間を過ごしながら永眠された。

【考察】

今回老健施設でもスムーズに看取りができた要因は、嘱託医・在宅医 2 人体制を取ったこと、スタッフとのカンファレンスを行ったことと思われる。